

園長 宇田津 円



明けましておめでと〜ございます。

新年のごあいさつが、大変遅くなってしまつて、心からお詫び申し上げます。

新年早々に、諸事情により時間が全くとれませんでした。申し訳ありませんでした。

今年も、職員一同頑張らせていただきますので、ご支援よろしくお願いいたします。



人生は、幼児期にはじまる

—空いた穴は埋められない。どう手を貸すか—

「あたり前の事を言うな」と言われるかもしれないが、音がきこえるのも、歩きはじめるのも、食べることも、みな乳幼児期からです。

赤ちゃんに「ガラガラ」というおもちゃを顔の前で振ってみせたり、赤ちゃんが歩こうとする素振りがあると、赤ちゃんの両手をとって、「アンヨ、アンヨ」と言って歩かせたりするでしょう。これは、放っておけばいざれ歩くようになるのかお膳に食べ物置いておけば、いざれ食べるだろう

とか言うのとはちがいます。「これは、こうするのだよ」と言う一種の教育になります。この様に、乳幼児にも「はじめの一步」があります。

私たちは、それぞれの家庭から、お子様をお預かりして、教育をするのですが、同年代からといって皆一緒に同じ発育ではありません。クラスでは、その発育を全体的にその年令で仕上げなければならぬレベルまで持っていこうと努力します。子どもによつて、発育の時期のちがいはありますが、手を添えて丁寧に指導していただいた子どもと、そうでない様にみえる子どもでは、随分と発育のちがいがみられます。

そこで、クラスだよりを通して「今月はこの様な指導をします。」ということをお伝えしますので、保護者のかたも一緒に同じ指導をしていただけると、効果が上がるかもしれません。

努力のあとは、また、さらなる発展につながっていきます。

今年もよろしくお願いいたします。

